

DEBUT 首長

栃木県那須塩原市長 阿久津 憲二氏



あくつ・けんじ 1943年栃木県那須塩原市生まれ。61年栃木県立黒磯高校卒。家業の農業を継ぎ、酪農などを営んだ後、旧黒磯市（現那須塩原市）の市議を2期つとめ、その後県議にくり替えした。自民党時代は議長も経験したが、6選目はみんなの党に所属。69歳。

財政に余裕でも歳出見直し 首都機能受け入れ再度狙う

栃木県那須塩原市 2005年に黒磯市、西那須野町、塩原町の合併で発足し福島県に隣接する。酪農が盛んで生乳生産量は本州市町村でトップ。人口は11万7770人。

——財政再建の重要性を訴えており、行財政改革の推進を目指している。

どこの自治体でもそうだが、今の首長の最大の課題は財政再建だろう。那須塩原市の場合、市長に就任してみると意外と余裕のある財政状況で驚いたが、それでも以前の状態のままで放っておいていいわけではない。栃木県も那須塩原の周辺の自治体もみんな財政再建プログラムに取り組んでいる。市民のさまざまな要望に応えるためにも財政再建は必要だ。

一般会計当初予算では義務的経費や法令に基づくものなどの最低限必要な「骨格的予算」を組み、その後、各団体への補助金などを決めることにした。関係者はショックだったようだが、中身を精査して予算を付けるには必要なことだった。財政再建

についてはかなり取り組みが進行していると考えている。

——市長自身も報酬をカットした。

栃木県議会議員時代から主張していたことでもあるし、市長選挙でも公約に掲げており、給与は3割のカット、退職金はゼロとした。ここまで徹底している首長は全国的にも極めてまれだと自負している。

——放射性物質の除染も大きな課題だ。塩原温泉など観光地を抱えるだけに、観光産業の振興も求められている。

除染は徹底的にやる。国や東京電力の補償がどうなるかにかかわらず、方策を取りまとめる方向で進めている。除染は木を切り、土砂などを取り除くだけでなく、それら大量の廃棄物をどうするかが大きな問題になる。現在、除染に伴い発生した廃棄物を燃やして発電に使い、そのうえで焼却した物質を処理する手法を検討しており、実証試験の準備を進めている。

観光振興については公約に掲げたように誘客の企画立案にたけた人材を公募している。観光

産業はヒトを動かさないと進まない面がある。この感覚は経験のある人でないと分からないと思う。

——首都機能のバックアップについて移転候補地として名乗りを上げた。

県議時代から福島県とも連携して国会等の移転問題に長く取り組んできた。当時も那須塩原は移転先として高い評価を得ていた。だが、何億円もの費用をかけて運動したのに何の成果もない状態になっている。東日本大震災の後、東京のバックアップということで全国各地が手を挙げているが、今は大阪周辺がその有力地というムードにもなっている。過去にかけた膨大な経費を無駄にしないためにも、そんなことなら、もともと高い評価を得ている那須塩原が名乗りを上げてもいいだろうと考え、手をあげ、取り組みを進めているという状況だ。

（聞き手は

宇都宮支局長 小口 道徳）